

日本海沿岸域におけるヤリイカ底建網漁業

十三 邦昭

概 要

底建網漁業は、昭和初期頃に深浦町大戸瀬地区で行ったのが始まりと伝えられる。当初はカレイ類主体であったが、昭和45年頃からヤリイカが主体となって鯨ヶ沢地区に普及され、以後、深浦、岩崎、市浦地区などに普及し、日本海側では現在約250隻が操業しており、冬期間の重要な漁業となっている。

使用漁船は3～9トン型で6トン前後が主体、乗組員は2～4人である。

漁期は県知事許可の際、漁場ごとに定められているが、全体としてはおおよそ11月～6月頃までで、盛漁期は12～1月である。

漁場は昭和45年頃までは水深40m以浅であったが、その後、漁ろう設備、並びに漁ろう技術の向上により次第に沖合化し、現在は水深約130m沖合まで建込んでいます。

漁獲物の主体はヤリイカであるが、ヒラメ、カレイ類も多い。

漁 具 漁 法

1) 漁 具

図1に示した漁具は、鯨ヶ沢地区の5～6トン型船の代表的な底建網規模のものである。船の長さに合わせて網の間口が決められ、身網は長方形に近い形状で、中には二段落しの『じょうご』が作られ、身網の奥には魚捕り用の袋がついている。身網の後方上棚の角にアンカー網が取り付けられる。この網の長さは、設置水深によって加減し、通常設置水深の4倍を使用している。

身網の間口には垣網（手網、袖網ともいう）とさらにその先にアンカー網が続いている。この部分も設置水深と関係が深く、垣網の長さは100mと定められているが、垣網長とアンカー網長の合計が水深の3～4倍に相当し、身網後方の網の長さと同様に釣り合うようにしている。

2) 漁 法

網を設置するときには、図2に示したようにあらかじめ船首右舷側に1丁、船尾の右舷側と中央部及び左舷側に各一丁、計4丁積み込んでおき、所定の漁場に到着後、順番にアンカーやロープを落として行く。

その際①、②のロープにはアンカー③まで進めるよう余分のロープをそれぞれ結んでおく。船が身網投入予定の中心点に戻った時点で身網を投入するとともに余分のロープを外し、同時にその端を身網後方の上棚角に結ぶ。このとき、それぞれのロープが十分張るように締めあげ、網が四角になる状態にすることが重要である。

次に敷設された底建網の揚網方法であるのが、身網間口の上棚両端に揚網（口引き縄）が2本ついているので、その揚網を船上のドラムで巻き上げると身網間口とそれに続く手網が持ち上

がってくる。しかし、網やロープの抵抗が強く、身網を手繰って袋網を船に取り上げる作業は困難である。この作業を容易にするため、いろいろ工夫がなされている。即ち、アンカー綱が直接身網を引張るのを避けるために身網の周囲に型綱を張り、それに網綱（やりくり綱）を取り付け、身網後方の角にこの網綱と滑車を連結させ、滑車を通してこの網綱に別のロープを付け足し、引き締めたり、伸ばしたりすることによって、身網を自由に動かせるようにしている。

滑車を通した網綱は型綱に沿って身網の間口角を通り、その先が揚げ綱に続いているので、揚げ綱を手繰り寄せて船に固定すると身網後方は自由になり、容易に船に寄せられるようになる。したがって、手網が水面に上がったとき、テボ（長さ約3 m）を船首のカヌキと船尾の船ばりにそれぞれ巻き付け、船が移動しないようにして、網綱に別のロープ（水深程度）を付けたし、網綱を伸ばしながら沈子巻き綱をドラムで巻くと身網が水面に浮いてくる。

乗組員が3人の場合は、船首と船尾の2人は網の両端、中央部の1人は網の口を手繰り船に網が引き上げられるが、網は身網半分位と袋部分がひきあげられる。

上記揚網終了後、投網と同時に網綱を引き締め、沈子巻き綱を伸ばすと、滑車の作用により網が緊張し、元の型のまま海中に沈む。

特 徴

- ① 網が比較的小型であることから、移動が容易で潮流や対象魚種によって多様に対応できる。
- ② 経費が安く、少人数で操業できる。
- ③ 漁獲対象種が多く、ヤリイカ、ヒラメなどの高級魚が量的に多い。
- ④ 漁獲された魚は活魚としても利用できる。
- ⑤ 漁獲効率がよいので、網の建込数が多いと漁場の紛争が起きたり、資源が枯渇するおそれがある。この点の対策が必要である。

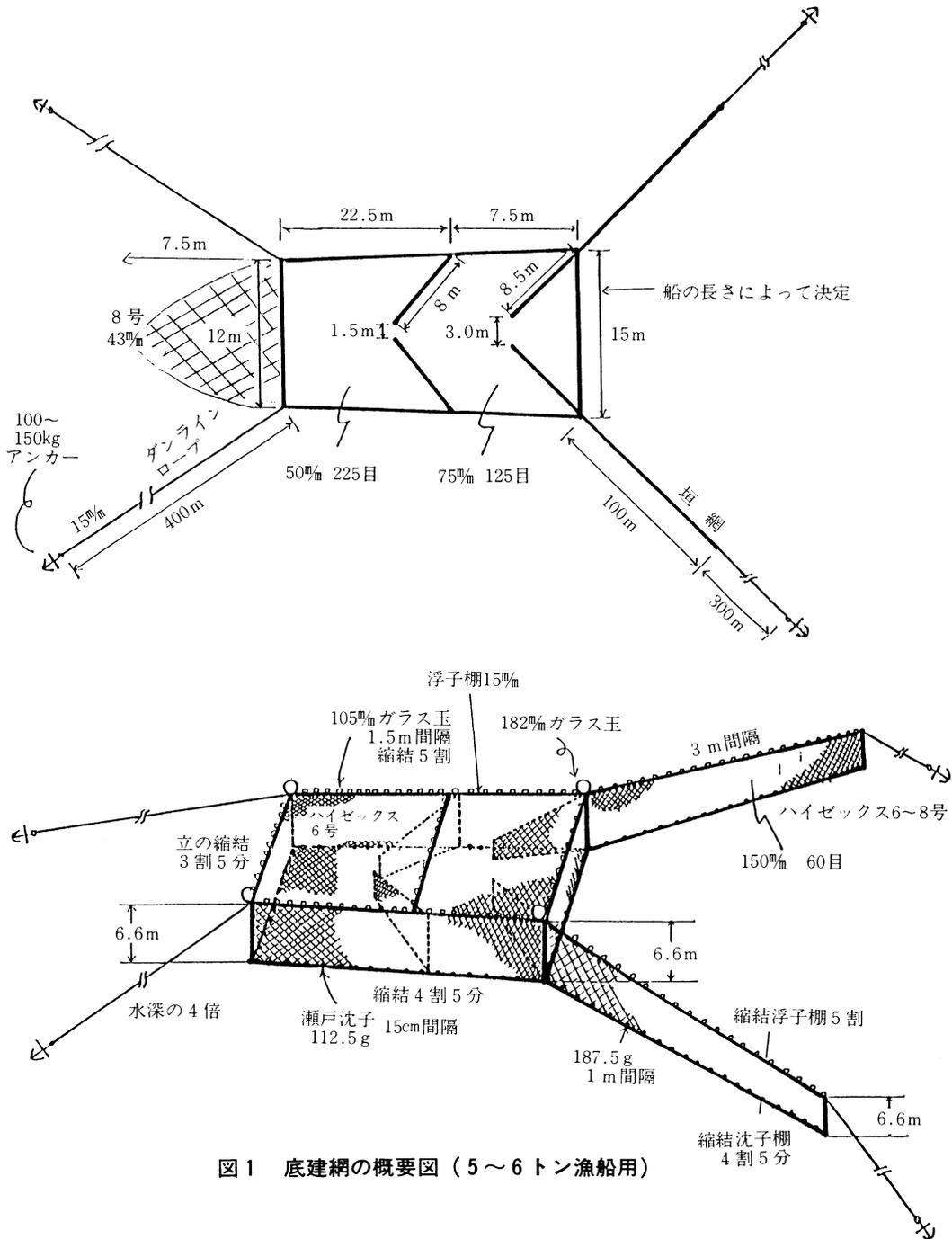


図1 底建網の概要図 (5~6トン漁船用)

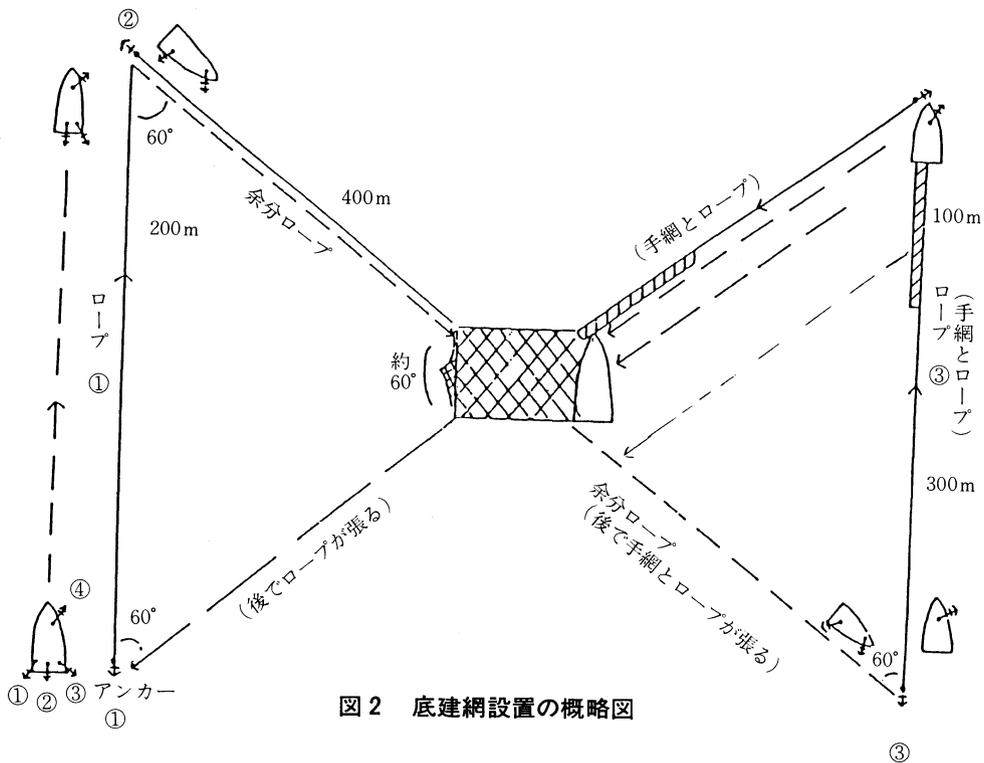


図2 底建網設置の概略図

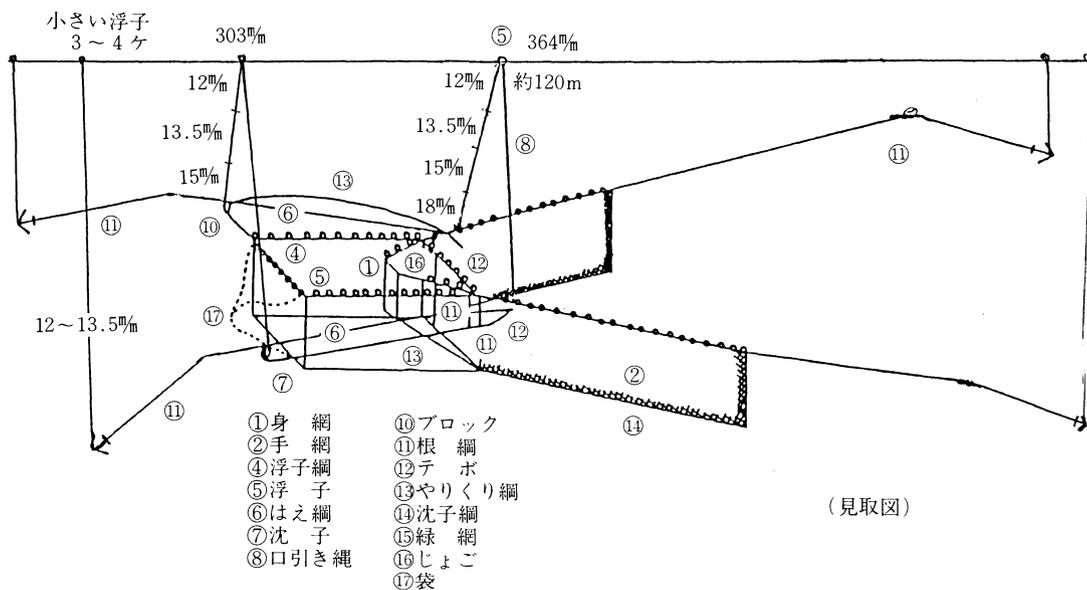


図3 底建網漁業の操業概略図

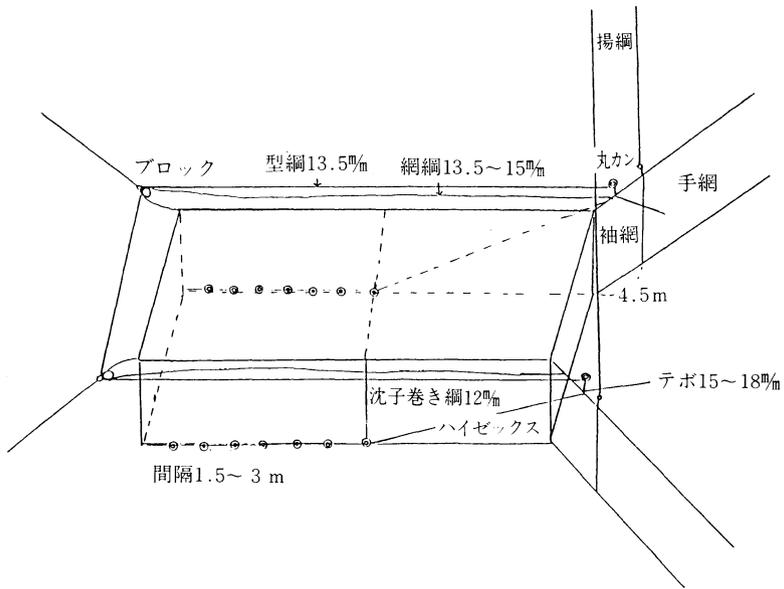


図4 網網などの連結図

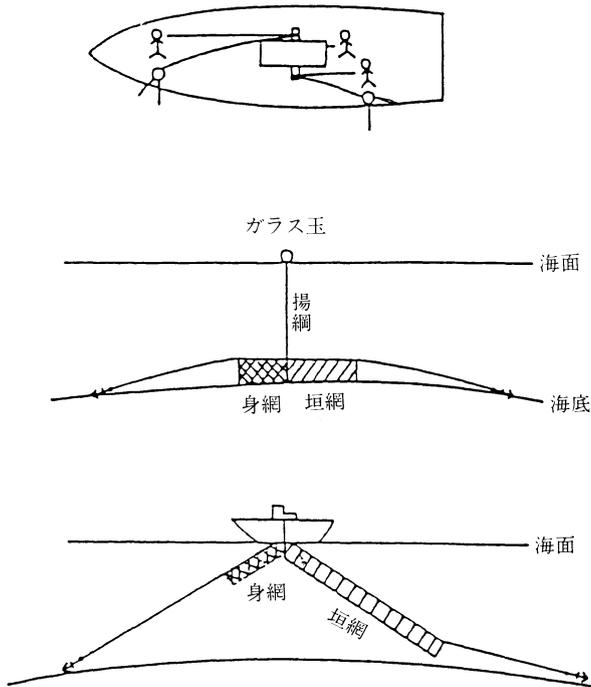
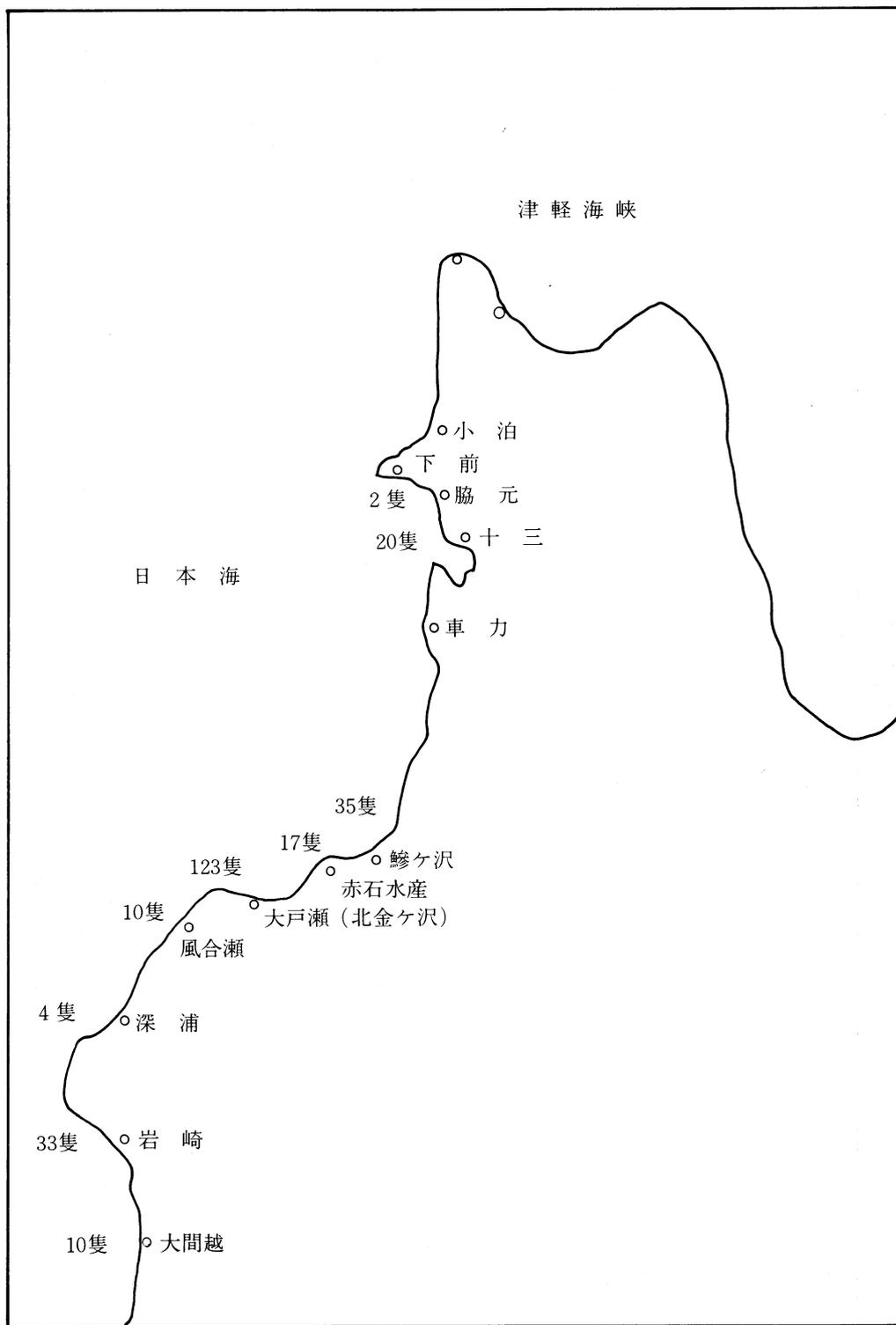


図5 底建網の揚網概略図



付図 ヤリイカ底建網操業隻数

付表

鯉ヶ沢地区の昭和63年度水揚一覧表

kg 円

漁業別 魚種	沖合底曳		大型定置		小型定置		一本釣		刺網		スルメイカ		採草		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ヒラメ	9,061	35,278,570	325	1,171,454	16,428	62,823,872	451	1,843,619	8,402	27,993,263					34,667	129,110,778
マス			1,694	2,454,592			193	318,375							1,887	2,772,967
タイ	873	1,292,040			1,472	2,349,535									2,345	3,641,575
タラ	84,489	37,746,923	1,217	743,101	30,170	9,850,080									115,876	48,340,104
サメ	271,974	50,595,528					28,159	5,237,574							300,133	55,833,102
カレイ	67,661	85,186,902			44,154	53,374,773			19,463	26,510,119					131,278	165,071,794
マグロ			156	421,207											156	421,207
メバル							578	1,168,235							578	1,168,235
ウマズラハギ					13,000	1,117,000									13,000	1,117,000
サケ			23,907	14,553,373	6,112	3,010,604			419	186,420					30,438	17,750,397
アンコウ									2,169	295,120					2,169	295,120
ホッケ	101,470	7,378,051			23,900	1,912,306									125,370	9,290,357
サバ					11,970	1,155,879									11,970	1,155,879
ソイ					8,014	6,204,313			292	200,088					8,306	6,404,401
アイナメ	6,638	5,687,129			8,845	6,629,290	855	590,222	4,124	3,429,321					20,462	16,335,962
スルメイカ											437,021	209,237,546			437,021	209,237,546
ヤリイカ	18,558	11,060,568	401	515,536	227,123	233,888,006									246,082	245,464,110
タコ	44,550	14,174,612			45,657	14,064,400			802	238,513					91,009	28,477,525
クルマエビ									89	615,064					89	615,064
エゴノリ													409	2,315,594	409	2,315,594
その他	97,846	29,405,762	36,880	4,941,899	51,997	28,949,485	708	699,219	31,541	5,700,593					218,972	69,696,958
合計	703,120	277,806,085	64,580	24,801,162	488,842	425,329,543	30,944	9,857,244	67,301	65,168,501	437,021	209,237,546	409	2,315,594	1,792,217	1,014,515,675
											外来船	337,558	161,353,122			
											地元船	99,463	47,884,424			

※魚協資料 ※小型定置(底建網)